



漏水の疑いがあります！

(体験版)

タケチャン大佐

体験版



18 禁

「どうしたんですか、小鳥さん？」

「あ、律子さん……」

小鳥が事情を説明すると、律子は頷いてこう呟いた。

「となると、自分で修理しちゃえば、タダって事ですよね？」

「えっ」

言うと律子は、戸棚から工具を持ち出す。

「だって勿体無いですよ、わざわざ業者さん呼ぶなんて。それだったら、私達で何とかしましょう」

「え、あ、ちよっと待ってください……」

*

思い立ったが吉日とばかりに、上着を脱ぎ、工具と懐中電灯を手に「65プロが借りているフロアの隅から隅まで調べる律子。

「……さて、どこが漏水してんのか、と」

「律子さんやっぱり業者呼びましょうよ、こう言うのって素人がやっちゃいけないんじゃないやありませんか？」

「大丈夫、私だって壊れたコピー機くらいなら自分で修理できますから、水道管くらいお手の物ですよ」

トイレや給湯室など、水が漏れていそうな場所をくまなく探すと、やがて洗面台の下にたどり着いた。

「……もう、最っ低！！！！何なのよこれ!？」

怒りに任せて、工具を投げつける律子。

「おはようございまふござい!？」

そこへ運悪く、プロデューサーが入ってきてしまった。

工具は見事、まるで現役時代の宇野宜しくデコに激突する。

「あっ!？」

*

「いでで……」

「だ、大丈夫ですかプロデューサー!？」

「それよりも、お前こそどうしたんだ律子そんなにずぶ濡れで……」

「いや実は……」

説明する律子をよそに、プロデューサーはずぶ濡れになった律子の身体を舐め回すように見つめる。

「あのなあ律子、そう言うのは業者にだな……」

「解ってますよ、でも……って、どこ見てるんですかっ!」

「いやーその、セクシーだなあって思っって」

「え、ひゃっ!?!」

慌てて胸元を隠す律子。本人は気づいていなかったのだが、白いブラウスが濡れた為、ブラジャーも透けた上に元々大きな胸に湿ったブラウスが張り付きそれはもう卑猥な姿になっている。

「ちよ、鼻の下伸びてますよプロデューサー!」

「いいのかそんな事言って?大体、お前が事務所の水道管壊したせいで……」

「そ、それは……」

「なあ律子、黙っててやるからやらせてくれないか?お前のその格好見てたら俺勃ってきちゃってさ……」

言われると確かに、プロデューサーの股間がバキュラ状態になっていた。NSF発食らわしても倒せないであろう硬さだ。

「うう……」

律子にも理由はあるからそれ以上反論はしなかった。

*

(むにゅ)

「ひあっ」

水分を吸ったままのブラウスはまだじゅくじゅくと音を立てる。透けたブラウスの上から揉まれる乳房は柔らかくて弾力性がある。